

働きながら最先端の知識と研究能力を修得する

生活と学問を結ぶあなたの大学院

人間総合科学大学大学院

こころ・からだ・食

心身相関の探究



人間総合科学研究科

心身健康科学専攻

通信制

修士課程……………P.4

博士後期課程……………P.6

臨床心理学専攻

通信制

修士課程……………P.8

健康栄養科学専攻

通学制

修士課程……………P.10



本冊子は概要紹介となります。
詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.human.ac.jp>

文部科学省認可

Guide Book

新しい学問領域の創造

心身の健康に関する諸問題の

科学的・客観的説明と実践的解決を目指す

現代のわが国は、かつてない豊かな社会を実現しましたが、一方で、その豊かさから派生してきた多くの問題が現われています。例えば、日常的ストレス、犯罪の低年齢化、少子高齢化に伴うさまざまな健康問題や社会問題が山積みになっています。その中で、現在、人々が自らの生きがいを見出し、心身ともに健康で、すべての人が自立し、国際的にも共生できる豊かな未来社会を築くことが課題となっています。

それに応えるためには、まず「人間」「生命」「健康」に関して総合的に理解することが不可欠です。その際、心身の機能に関して科学的、客観的探究を行うことが求められています。本大学院・人間総合科学研究科では、こころとからだの有機的な関連性を軸に、脳科学や進化医学、生理学や心理学、栄養学や文明科学など、人間にかかわる様々な領域を統合的・学際的に探究します。

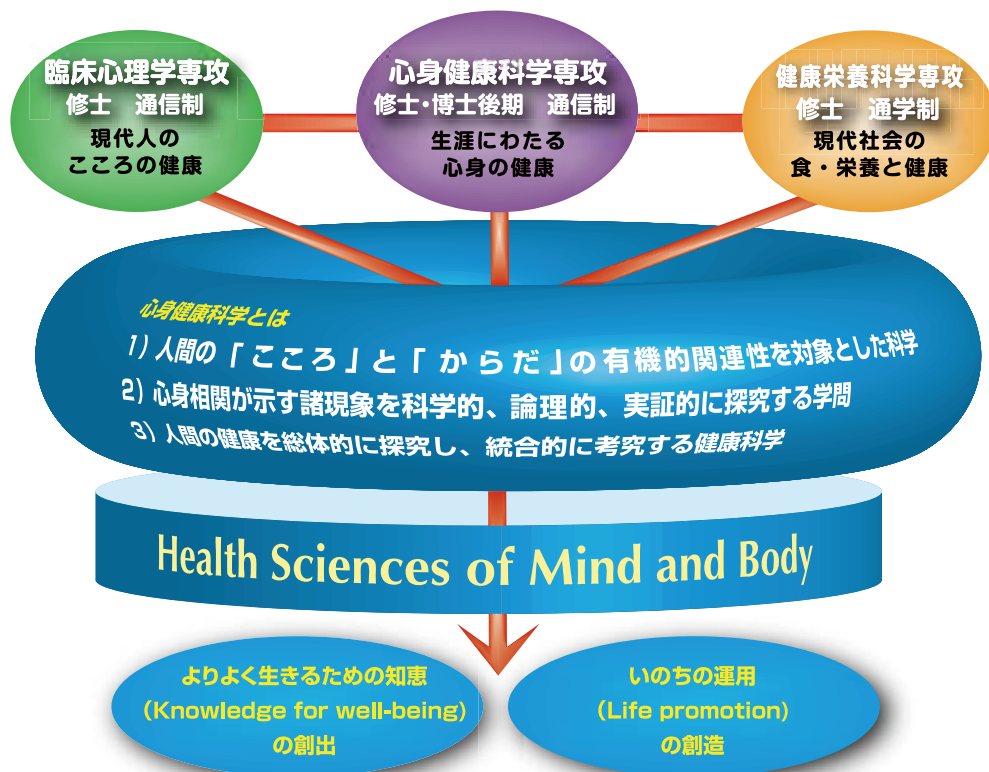
大学院では現在3専攻（心身健康科学専攻、臨床心理学専攻、健康栄養科学専攻）を擁していますが、いずれも心身健康科学を核とし、これからの生涯健康社会の実現のために、ヒトの心身相関にかかわる側面、こころの問題にかかわる心理・社会的側面、生命維持の基本となる食・栄養の側面から掘り下げて考究していきます。その中で、生活・生命の質（QOL）の向上を図るKnowledge for well-being（よりよく生きるための知恵）の創造と、個々のライフプロモーション（Life promotion）の実現に向けた教育・研究活動を行っています。

物質から心の時代といわれる現代を生きるうえで必要な「よりよく生きる」ための洞察力、探究力、問題解決能力、創造力を育み、心身健康科学を基盤とする高度で専門的な知見と研究能力を備えた研究者や、こころとからだの健康づくりを支援する職業分野のリーダーとしての能力を発揮する人材を養成しています。



学校法人 早稲田医療学園 理事長
人間総合科学大学 学長 久住 真理
医学博士 臨床心理学修士

人間総合科学研究科の研究領域



通信制の特徴

「こころ」と「からだ」のつながりを探究

社会や文化をふまえ、こころとからだの両側面から総合的な人間理解に向けてアプローチします。そして、心身健康科学の視点から学際横断的に研究し、「よりよく生きるための知恵 (Knowledge for well-being)」を創出します。

インターネットを活用して学位取得

本学専用のポータルサイトで展開されるeラーニングシステムにより、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いて、いつでも、どこでも学修に取り組むことができます。

通信制大学院トップクラスの修了率

充実した学修環境が学位取得をバックアップします。修士302名、博士31名(2016年4月時点)が学位を取得し、開設以来高い修了率を維持しています。(心身健康科学専攻)

本学(修士課程)	約92%
他大学平均	約36%

※2014年度文部科学省基本調査報告書より

社会人学生に配慮した研究スタイル

修士課程での研究は、社会人学生の幅広いテーマ設定に対応しています。研究の最終成果物として、新たな知見を見出す修士論文、もしくは心身健康科学に関するテーマを報告書としてまとめる特定課題研究報告書を選択することができます。(心身健康科学専攻)

すべての教員がバックアップサポート

博士後期課程では、指導教員の他にサポート教員も指導にあたります。また、修士課程・博士後期課程のいずれもポータルサイトを介した質問や中間発表会等の機会を通して、学修・研究内容に対して全ての教員の助言とサポートを受ける事ができます。

通学制の特徴

養成する人材像

健康栄養科学専攻は、病院において、チーム医療の一員として高度な栄養管理、栄養指導を行う臨床栄養領域での予防・治療に携わる人材を養成します。さらに企業、学校、地域、諸福祉施設などでカウンセリング技法を用い個人の栄養指導をおこなう人材や、それらに関連する研究・教育業務に従事する人材を養成します。

大学院研究科長挨拶



人間総合科学大学 副学長
人間総合科学研究科長
久住 武

心身相関の仕組みを現代科学の眼をもって理解する

本学には、よりよく生きるための知恵 (Knowledge for well-being) を身につけるという理念が教育の根底に流れています。大学院では、心身相関という概念から、人間・地域・社会にとっての「生きるための知恵」を、民生日用の学 (貝原益軒) として創出しようとしています。

この益軒は著書の中で「博く(俯瞰し)学び、その知を統合し実践する(問い、思い、弁じ、行う)」ことが、その本質にあたるという考え方を示しています。本学・大学院は、「こころとからだの相関性」から「人間の全体像を科学的に理解する」ことを探求し、その成果を社会に還元し「よりよく生きるための知恵」を創出することを目指しています。

【研究・教育のPOINT】

心身相関の科学の概念を学ぶ『心身健康科学特講』など本学の核となる数科目を、大学院の共通科目として、全専攻のカリキュラムに設けています。このことが領域を超えた統合的な研究活動の基礎を形成します。

専攻長挨拶

社会人だからこそ実践知・経験知を学問知へと昇華することができる



人間総合科学研究科
心身健康科学専攻 専攻長
小岩 信義

心身健康科学専攻は、人間の「心身相関」に焦点をあてて、人類の永遠のテーマである「健康」や「幸福」等の実現に貢献できる学問知を創造し、社会に発信することを目指しています。本専攻では大学院生が仕事をしながら学修・研究を継続して修了できるよう皆さんをサポートする独自のシステムを構築し、研究指導のノウハウを蓄積してきました。入学後は、豊富な経験を持った研究指導教員と皆さんとが深い議論を繰り返すことで、実生活や仕事を通して日々遭遇している事象の中に、心身の健康に関わる本質的なテーマを見出し、これを斬新なアプローチで探究していきます。

人間への温かいまなざしを共有したい



人間総合科学研究科
臨床心理学専攻 専攻長
島田 涼子

人が他者の援助を必要とするときには、こころやからだに不具合を生じたり社会適応に困難を抱えて、傷つき苦しみ、悲しんだり怒ったりしています。臨床心理学専攻では、そのような状態にある人々に寄り添い、その人が自分の感情、思考、行動、生き方を選ぶ自律性の芽を一緒に探し守りながら、社会・文化との関係も含めた、全体としてのその人なりの健康と幸せを目指す援助ができる専門職を養成します。

専門領域で必要とされる知識と連携スキルを身につけ、実践とトレーニングを通して自己理解を深め思いやりのある臨床家を育て、ともに成長していく場となることを願っています。

食とこころの関係をさぐる



人間総合科学研究科
健康栄養科学専攻 専攻長
桑田 有

超高齢化社会は人類に突きつけられた解決すべき大きな課題です。何らかの健康上の不具合を抱えた栄養弱者に対し生きがいを持って健康寿命を達成するためには、あらゆる場面で最適な栄養摂取ができる環境を整える必要があります。「食」「栄養」「健康」に関する人々の多様な価値観の中で、「よりよく生きる」を希求し「たべもの、たべること」の原点を根源から正しく理解し、日常の食生活に反映していくためには、食物、身体、心を統合した学識、技能を修めたより専門性の高い管理栄養士が現代社会では求められています。

このようなニーズに応えるため、心身相関の基本的概念を基に、人間理解力に長け、実践力を有する人材の育成を目指しています。

心身健康科学専攻
通信制

臨床心理学専攻

健康栄養科学専攻
通学制

心身健康科学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機的関連性を考究し、心身の健康に関する専門知識を総合的に教授研究し、「生きる力」としての、洞察力、探究力、問題解

決能力、創造力を育み、研究の徒となり得る人材、社会において指導者的役割を果たす人材を育成します。

カリキュラム

科目履修・研究のスタートとして、「こころ」と「からだ」の有機的関連性の理解を深めるために、研究科の根幹（コア）といえる「心身健康科学特講」、その他「心身健康科学特論Ⅰ」「心身健康科学特論Ⅱ」「心身健康科学特論Ⅲ」の4科目を履修（1年次必修）します。また、選択必修科目および選択科目は20科目が開設され、各自の研究を進めていくうえで必要な科目を履修します。1年次または2年次に選択必修科目を2科目以上、選択科目を4科目以上選択し、履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数	
コア科目(必修)	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2	
必修科目	心身健康科学特論Ⅰ	1	前期	M	3	
	心身健康科学特論Ⅱ	1	後期	M	3	
	心身健康科学特論Ⅲ	1	後期	M	3	
選択必修科目 (6単位以上)	健康科学・疫学特講	1・2	前期	M	3	
	生命文化特講	1・2	前期	M	3	
	高次脳機能学特講	1・2	後期	M	3	
	心身機能観察特講Ⅰ	1・2	後期	T・S	3	
	心身機能観察特講Ⅱ	1・2	前期	T・S	3	
	心身機能観察特講Ⅲ	1・2	後期	T・S	3	
	選択科目 (8単位以上)	ストレス学特講	1・2	後期	T	2
		認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
		ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
		心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
精神分析特講		1・2	後期	T	2	
比較文化特講		1・2	前期	T	2	
健康文化論特殊講義		1・2	前期	T	2	
発達心理学特論		1・2	後期	T	2	
心身医学特論		1・2	前期	T	2	
老年心理学特論		1・2	前期	T	2	
健康栄養学特殊講義		1・2	前期	T	2	
食文化特講		1・2	後期	T	2	
文化人類学特講		1・2	前期	T	2	
応用健康科学特講	1・2	後期	T	2		
研究指導(必修)	心身健康科学研究Ⅰ	1	通年	R	3	
	心身健康科学研究Ⅱ	2	通年	R	3	

修了要件	内容
1	休学、停学期間を除いて2年以上在学し、次のとおり授業科目について31単位以上修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査を通過し最終試験に合格すること。
2	コア科目(必修) 2単位
3	必修科目 9単位
4	選択必修科目 6単位以上
5	選択科目 8単位以上
6	研究指導科目 6単位

- コア科目(全専攻修士課程共通科目)
- 心身健康科学専攻博士後期課程及び全専攻修士課程共通科目
- 心身健康科学専攻博士後期課程、同専攻修士課程及び臨床心理学専攻修士課程の共通科目
- 心身健康科学専攻博士後期課程及び同専攻修士課程の共通科目
- 心身健康科学専攻修士課程及び健康栄養科学専攻修士課程の共通科目
- 心身健康科学専攻修士課程及び臨床心理学専攻修士課程の共通科目

- T : テキスト履修
- M : メディア履修(テキスト履修+ビデオ履修)
- T・S : テキスト履修 + スクーリング履修
- R : オンライン指導 + 面接指導

※本課程で使用する言語は基本的に日本語ですが、同一の学修・研究を英語にて進める学位プログラムも提供しています。

※カリキュラムは2016年4月現在のものであり、変更の可能性があります。

授業 Pick Up

必修 心身健康科学特講

心身健康科学という学問の全体像を把握し、それにもとづく修士課程での学修と各自の研究の位置づけを見出すことができますようにします。

必修 心身健康科学特論Ⅰ

心と身体の有機的な相互関係を心身相関といえます。この科目では脳と脳の活動を支える身体機能の基本的な仕組みや心身相関の神経科学的な仕組みについてオンラインにて学びます。

必修 心身健康科学特論Ⅱ

心身健康科学の研究を進めるために必要となる研究法や統計解析手段の基本的な考え方をオンラインと教材を用いたディスカッションを行いながら学びます。他者の研究の優れた点や問題点を評価する力を養います。

必修 心身健康科学特論Ⅲ

各自の研究計画の中に心身健康科学の視点・考え方をどのように入れていくかについてオンラインと教材を用いたディスカッションにより考えます。

選択必修 健康科学・疫学特講

疫学は人間集団が遭遇する健康問題をどのように理解し対処するかに関する知識と実践の体系のひとつです。この健康科学の方法論の1つである疫学についてその歴史や研究方法について学修します。

選択必修 生命文化特講

先端医療技術の発展は臓器移植、再生医療などに進歩をもたらしましたが、同時に多くの生命倫理上の問題も生み出しています。生命科学、医学、心身健康科学の知識と理解のもと法学的、哲学的、倫理的な視点から生命倫理について探求します。

選択必修 高次脳機能学特講

人は自分自身を含めた周囲の「環境」を理解し、今までの知識や経験をもとに適切な行動を判断し、実行します。この知的・認知能力を可能とする脳神経機構について、最新の脳神経科学研究の成果を参考に学修します。

選択必修 心身機能観察特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

心身の有機的な関連性に対する理解を深めるため、実験・観察を通して、ストレス刺激に対するヒトの自律神経反応やバイオマーカーの変化、脳活動などを観察します。

修士課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受講する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



メディア履修 (M)

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

「心身健康科学特講」(必修)と実験実習科目(選択必修)では、テキスト履修に加えてスクーリング(対面式授業)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



研究指導 (R)

修士課程では、年間5回(2年間で10回)の面接指導(合同ディスカッションを含む)のほか、中間報告会の発表を通して修士論文または特定課題研究報告書を完成させます。



研究テーマ例

- ・ 職業性ストレス及び心身健康度が労働パフォーマンスに及ぼす影響
- ・ 脳卒中片麻痺者における車椅子用骨盤ベルトの有効性と使用条件の検討
- ・ 高校男子サッカー選手における運動時心拍数と自覚的な体調および心理状態との関連
- ・ 作業療法臨床実習指導者の分野別によるストレスの分析
- ・ 「差異」の捉え方からみた健康観と健康問題の対策に関する一考察
- ・ 看護業務による疲労と交代勤務が衝動性制御に与える影響
- ・ 特別養護老人ホームにおける看取りに対する介護職員の姿勢 - 介護職員への面接調査を通して -
- ・ 慢性腎臓病患者における病態と食事療法の心理的不安感
- ・ 理学療法士養成校の学生が感じるストレス度と行動傾向

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 修士(心身健康科学)

心身健康科学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機的関連性を支える法則性について深い学識と高度な研究遂行能力とを養い、学際的・統合的な視点と姿勢をもって自立し

て研究活動のできる人材と、社会において先駆的な領域を開拓できる人材を養成します。

カリキュラム

1年次には、必修科目である「心身健康科学特殊講義」を履修し、心身健康科学における心身相関の科学、健康科学、統合・学際領域という研究深化の視点を養うとともに、院生の研究テーマにつなげる端緒を導きます。「心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はテレビ会議システムを使用するセミナーです。選択科目は12科目開設され、各自の研究テーマに応じ、科目を履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
必修科目	心身健康科学特殊講義	1	前期	T・S	2
	心身健康科学特殊演習Ⅰ	1	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅱ	2	通年	EX	2
選択科目 (2単位以上)	心身健康科学特殊演習Ⅲ	3	通年	EX	2
	健康増進科学特殊講義	1・2	前期	T・S	2
	生命哲学特殊講義	1・2	後期	T・S	2
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	生命倫理特殊講義	1・2	前期	T	2
	心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	神経内分泌機能学特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康文化論特殊講義	1・2	前期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
研究指導 (必修)	心身健康科学特別研究指導Ⅰ	1	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅱ	2	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅲ	3	通年	R	2

修了要件 休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次の通り授業科目について必修科目を含め16単位以上を修得し、かつ博士論文の審査を通過し最終試験に合格すること。

- 1 必修科目 8単位
- 2 選択科目 2単位以上
- 3 研究指導科目 6単位

- 心身健康科学専攻博士後期課程及び全専攻修士課程共通科目
- 心身健康科学専攻博士後期課程及び同専攻修士課程の共通科目
- 心身健康科学専攻博士後期課程、同専攻修士課程及び臨床心理学専攻修士課程の共通科目

- T : テキスト履修
- T・S : テキスト履修 + スクーリング履修
- EX : 演習 (テレビ会議セミナー)
- R : オンライン指導 + 面接指導

※カリキュラムは2016年4月現在のものであり、変更の可能性があります。



授業 Pick Up

必修 心身健康科学特殊講義

心身健康科学という専門領域の特徴を活かした研究課題と計画を考究し、心身相関の現象を観察する上で必要となる実験・調査研究方法と解析手法を理解し活用できるよう学修を進めます。そして、心身健康科学の立場から仮説を立てて実験・調査研究のモデルを立案する能力を養います。

必修 心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

学生と教員によるインターネットを利用したセミナー (テレビ会議) です。博士レベルの心身健康科学研究を実施するために必要となる独創的かつ科学的な研究遂行能力を修得することを目的とし、Ⅰでは自らの研究遂行に必要となる国内外の文献の読解力向上と文献検索力、問題発見能力、プレゼンテーション能力を養います。Ⅱ・Ⅲでは学生各自の研究計画や進捗状況を発表し、学生および教員間でディスカッションします。



博士後期課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修→課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換→科目修了試験」の順に学修を行います。なお、科目修了試験は会場で受験する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

※ P.5流れ図参照

心身健康科学における心身関連の科学や健康科学について、学際的・統合的に考察する視点を養うため、必修科目と選択科目の一部でスクーリング（対面授業）が実施されています。テキスト履修に加え、スクーリングを受講し、科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

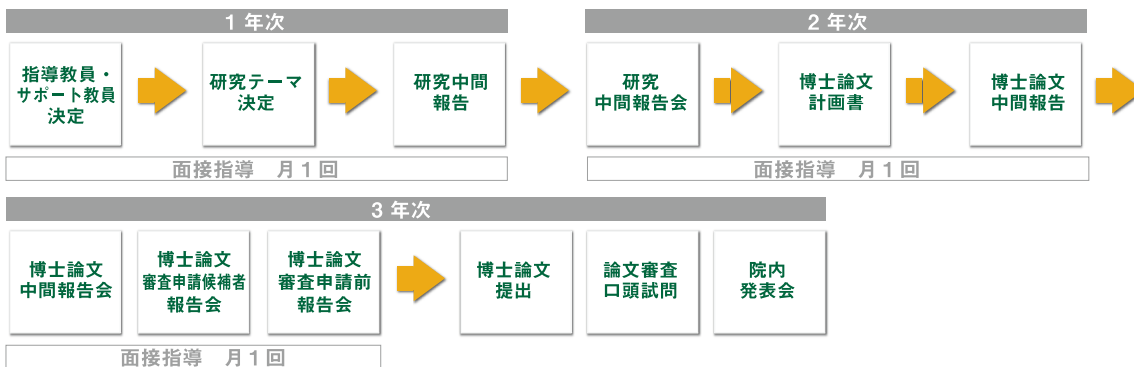
演習 (EX)

演習は、大学院生と全教員を交えたテレビ会議システム（インターネットを利用）を使ったセミナーです。演習授業に参加し、総合評価（プレゼンテーションと質疑応答の内容）で合格の基準に達すると単位が認定されます。



研究指導 (R)

博士後期課程では、月1回の個別面接指導のほか、必要に応じて随時面接指導、オンラインでの個別指導が実施されます。



研究テーマ例

- ・ 食事における n-6/n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取比率が大学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響
- ・ 救急医療現場における多様な業務が看護師の心身に与える影響
- ・ カックアップ装具のデザインに求められる要素の検討—支持部の長さを使いやすさの関連について—
- ・ 慢性腰痛の表面筋電図の特徴と心理社会的要因の関係—表面筋電図の筋活動パターンを中心に—
- ・ 透析患者の適切なたんぱく摂取量の検討—心身健康科学の視点から—

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 博士 (心身健康科学)

臨床心理学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機的関連性を科学的・統合的視点から追究し、高度で専門的な知識及び技術をもち、現代人の心身の健康の保持、増進に寄与するとともにまた

心理的問題の研究とその予防・回復のための援助を実践できる人材を育成します。

※臨床心理士第1種指定校申請予定
※公認心理士受験資格取得に向け準備中

カリキュラム

必修科目として、「こころ」と「からだ」の有機的関連性を理解するために「心身健康科学特講」を履修します。また、心理臨床家としての基礎知識や技能を修得するために「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」を履修します。さらに、選択科目の受講を通して、医療・教育・福祉・産業などの領域で求められている専門性を高めます。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数	必修	選択
コア科目	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2		
基礎分野科目	認知脳科学特講	1	前期	T	2		
	ストレス学特講	1	後期	T	2		
	臨床心理学特論Ⅰ	※1	1 前期	M・S	2		
	臨床心理学特論Ⅱ	※1	1 後期	M・S	2		
	臨床心理職関連行政・倫理特論	1	後期	T		2	
	臨床心理面接特論Ⅰ	※1	1 前期	M・S	2		
	臨床心理面接特論Ⅱ	※1	1 後期	M・S	2		
	臨床心理査定演習Ⅰ	※1	1 前期	S	2		
	臨床心理査定演習Ⅱ	※1	1 後期	S	2		
	臨床心理学研究法特論	※2	1 前期	T・S		2	
心理統計法特論	※2	1 後期	M		2		
展開分野科目	カウンセリング特論	2	前期	M	2		
	心理療法特論	※5	2 後期	M	2		
	心身医学特論	※6	2 前期	T	2		
	精神医学特論	※6	3 前期	M	2		
	学校臨床心理学特論	※5	3 前期	M	2		
	教育心理学特論	※3	3 前期	T・S	2		
	発達心理学特論	※3	2 後期	T	2		
	福祉領域 老年心理学特論	※6	3 前期	T	2		
	司法矯正領域 犯罪心理学特論	※4	2 後期	M	2		
	産業領域 産業カウンセリング特論	2	後期	M	2		
臨床心理技法科目	人間関係学特論	※4	2・3 前期	M	2		
	臨床心理援助技法論Ⅰ	2	前期	S	2		
	臨床心理援助技法論Ⅱ	2・3	前期	S	2		
臨床心理実習科目	臨床心理援助技法論Ⅲ	2	前期	S	2		
	臨床心理基礎実習Ⅰ	※1	1 後期	S	1		
	臨床心理基礎実習Ⅱ	※1	2 前期	S	1		
	臨床心理実習Ⅰ	※1	2 後期	S	1		
研究指導	臨床心理実習Ⅱ	※1	3 前期	S	1		
	臨床心理学特別研究	2・3	通年	R	6		

修了要件	休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次の授業科目について合計24単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査を通過し最終試験に合格すること。 1 コア科目 2単位(必修) 2 基礎分野科目 12単位(必修) 3 展開分野科目 4単位(必修) 4 研究指導科目 6単位(必修)
------	---

臨床心理士受験資格取得を希望する場合	臨床心理士受験資格取得を希望する場合は、本大学院臨床心理学専攻修士課程の修了要件に加えて、次の要件を満たしている必要があります。 1 ※1の10科目16単位を全て修得していること 2 ※2、※3、※4、※5を付した科目それぞれ2科目合計4単位のうち2単位以上修得していること 3 ※6を付した科目3科目合計6単位のうち2単位以上修得していること ※臨床心理士第1種指定校申請予定
--------------------	---

■ コア科目(全専攻修士課程共通科目)
■ 心身健康科学専攻修士後期課程及び全専攻修士課程共通科目
■ 心身健康科学専攻修士後期課程、同専攻修士課程及び臨床心理学専攻修士課程の共通科目
■ 心身健康科学専攻修士課程及び臨床心理学専攻修士課程の共通科目

T : テキスト履修
M : メディア履修(テキスト履修 + ビデオ履修)
T・S : テキスト履修 + スクーリング履修
M・S : メディア履修 + スクーリング履修
S : スクーリング履修
R : オンライン指導 + 面接指導

※カリキュラムは2016年4月現在のものであり、変更の可能性があります。

授業 Pick Up

必修 臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ

クライアントとの出会い、契約の結び方、査定、終結などの心理面接の過程を段階を追って学修します。また、カウンセリングの枠組みやクライアントとカウンセラーの関係性において生じる心理(転移・逆転移等)について、事例を通して学修します。

必修 臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ

臨床心理査定の理論について学修した上で、代表的な心理検査や知能検査の実習を行います。そして、検査の技能を身につけるだけでなく、検査結果を解釈し、所見を作成する技能も修得します。

必修 臨床心理基礎実習Ⅰ

心理臨床の専門家として必要な知識と技能を修得するために基礎的な実習、具体的にはロールプレイや試行カウンセリング等を行います。また、学内実習や学外実習を想定した倫理的配慮についての理解を深めます。



詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/cp/>

修士課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受講する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



メディア履修 (M)

※ P.5流れ図参照

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

※ P.5流れ図参照

心理臨床に必要な知識と技能を修得するためテキスト履修に加えてスクーリング (対面式授業) を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

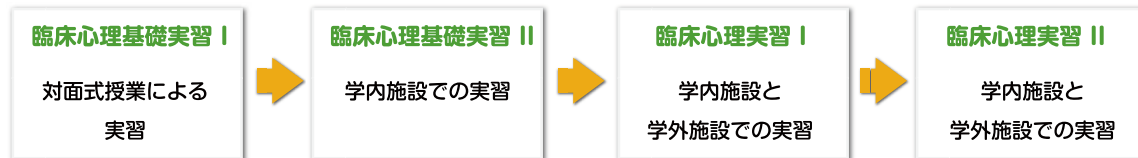
メディア履修+スクーリング履修 (M・S)

心理臨床に必要な知識と技能を修得するためメディア履修とスクーリング履修を並行して行います。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。



「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」 (S)

「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」では、学内実習と学外実習を通して心理臨床の知識と技能を段階的に身につけます。



研究指導 (R)

1年次に臨床心理学における基礎知識および研究法、心理統計の基礎・応用等を身につけ、2年次の4月に決定する指導教員が、その後2年間、研究計画の作成から修士論文の完成に至る研究を指導します。年間5回 (2年間で10回) の面接指導のほか、中間報告会の発表等を通して修士論文を完成させます。



修了・学位授与 修士 (臨床心理学)

健康栄養科学専攻【通学制】修士課程

教育研究上の目的

人間の心身両面の健康と「栄養・食」とのかかわりを科学的・統合的視点から追求し、高度で専門的な知識及び技術をもち、個人の健康の保持・増進を

栄養・食生活の側面から解決に導く事の出来る、健康科学に立脚した実践的な専門的能力を有する人材を育成します。

カリキュラム

食と栄養、そして心身のメカニズムについて高度な知識を身につけ、その専門的背景を軸とした栄養指導能力・研究能力を養うために、教育課程を編成しています。

区分	科目名	配当年次	開講時期	単位数
コア科目(必修)	心身健康科学特講 (T・S)	1	前期	2
必修科目	心身健康栄養学特論Ⅰ	1	前期	2
	心身健康栄養学特論Ⅱ	1	通年	2
	心身健康栄養学特論Ⅲ	2	前期	2
選択必修科目	神経・内分泌生理学特講	1	前期	2
	こころの健康特講	1	前期	2
	生命文化特講 (M)	1・2	前期	3
	心身医学特論 (T)	1・2	前期	2
	生体防御特講	1	後期	2
	抗ストレスと食事特講	1	後期	2
	栄養疫学特講	1	後期	2
	生活習慣病疫学特講	1	後期	2
	ライフサイクル健康栄養特講	2	前期	2
	病態栄養特講	2	前期	2
	栄養療法特講	2	前期	2
	分子栄養学特講	1	前期	2
	食品学特講	1	前期	2
	共生生物学特講	2	前期	2
食文化特講 (T)	1	後期	2	
国際栄養学特講	2	前期	2	
研究指導(必修)	健康栄養科学研究Ⅰ	1	通年	4
	健康栄養科学研究Ⅱ	2	通年	4

修了要件

休学、停学期間を除いて2年以上在学し、次のとおり授業科目について32単位以上を修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査を通過し最終試験に合格すること。

- 1 コア科目(必修) 2単位
- 2 必修科目 6単位
- 3 選択必修科目(健康科学領域) 8単位以上
- 4 選択必修科目(栄養科学領域) 8単位以上
- 5 研究指導科目(必修) 8単位

- コア科目(全専攻修士課程共通科目)
- 心身健康科学専攻博士後期課程及び全専攻修士課程共通科目
- 心身健康科学専攻修士課程及び健康栄養科学専攻修士課程の共通科目

T : テキスト履修

M : メディア履修(テキスト履修 + ビデオ履修)

T・S : テキスト履修 + スクーリング履修

※カリキュラムは2016年4月現在のものであり、変更の可能性があります。

生活習慣病疫学特講

生活習慣病は非感染性疾患の大部分を構成し、中でも循環器疾患による死亡は我が国において全死亡の3割以上を占めます。要介護状態となる原因疾患としては、脳卒中および、近年動脈硬化危険因子との関連が明らかとなってきた認知症が半分近くを占めます。超高齢化社会をむかえる本邦において、健康栄養学を学ぶものにとって必須である、循環器疾患を含む生活習慣病の状況、および、これら疾患予防のための生活習慣修正について学びます。

栄養療法特講

多様化した栄養補給法からの選択基準、およびライフステージ別での食事療法や特殊栄養として嚥下・咀嚼など、病態にそった供食による栄養療法の知識を講じます。そして、管理栄養士に欠かすことのない栄養療法の概論を理解し、各施設における臨床・病態栄養師として活躍できる能力を養います。さらに医療現場において臨床栄養の研究、およびNutrition Care and Management(健康・栄養管理)の質の向上について指導者として貢献できる人材教育を目指します。

授業 Pick Up

心身健康栄養学特論Ⅰ

中枢神経の働きとその物質的基盤をめぐる多くの断片的エビデンスの歴史は、食生活と栄養とが神経・内分泌組織などの情報伝達系を介して心にかかわっていることを示しています。本科目ではそれらの歴史的展開と近年の生体情報科学の成果からこれら食と栄養がかかわる最新のエビデンスを紹介し、将来のこの分野の科学を展望するべく議論を展開します。

心身健康栄養学特論Ⅱ

健康栄養科学にかかわるトピックスを心身健康科学の視点を常に意識しながら学術論文のポイントを的確に見抜き、「評価する力」を育むクリティカルリーディングの力を身につけ、広範な心身健康栄養学の学識を深め、調査研究手法を身につけます。

心身健康栄養学特論Ⅲ

それぞれの研究課題が、「心身相関」をキーワードに内包した“Knowledge for well-being(よりよく生きるための知恵)”を創造・発見することつながるように、院生各自の研究課題に関する総説を作成します。

こころの健康特講

ライフサイクル、あるいはアタッチメントをキーワードとして健康な心の発達についての基本的な考え方を学びます。さらに、実際に管理栄養士として現場で遭遇する可能性の高い様々な問題について、具体的な事例を挙げて現場で生じる心理的な問題を想像できるようになるとともに、それぞれの現場において管理栄養士として各受講生がどのようにかかわることが出来るかについて検討します。

共生生物学特講

人体を取り巻く外界に接する全ての境界には微生物が共生しており、ヒトの生体防御機能に多面的に貢献しています。特に外界に開いた器官(鼻、口、消化管、陰など)に共生する微生物菌層は粘膜免疫上重要な役割を演じています。代謝性臓器として腸内菌叢を位置付け栄養素の吸収にとどまらず代謝産物の免疫機能、精神活動に及ぼす影響まで関与する多面的な作用を学修します。

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/hn/>

修了・学位授与 修士(健康栄養科学)

修了生の声

専門性と教養を高める親身な研究指導



児玉裕子さん
心身健康科学専攻
修士課程
2016年3月修了
(労働衛生機関勤務・保健師)

私が取り組んだ研究は、「職業性ストレスおよび心身健康度が労働パフォーマンスに及ぼす影響」についてで、保健師として労働衛生機関で日頃行っている、企業の社員向けの健康指導はどのように役立っているのか、どのようにすればより健康改善や仕事効率の向上につながるのかについて、客観的なデータを分析し、その評価をまとめる研究でした。保健指導者として、会社の発展に役立ちたい、そんな思いから考えた研究テーマです。

この研究テーマを論文としてまとめ上げることができたのは、人間総合科学大学大学院の先生方の親身で熱意のある指導のおかげです。先生方は私の研究の方向性を導いてくださったほか、社員向けアンケート調査の実施とそのデータの解析など、初めてのことばかりで戸惑う私に根気よく指導してくださったことに、深く感謝をしています。

大学院で得られたことには、専門性だけではなく、自身の生き方や社会を捉え直す幅広い知識も挙げることができます。特に、「比較文化特講」や「生命文化特講」は、私の価値観や考え方を大転換させるきっかけになりましたし、視野を広げることにもつながりました。研究指導と授業を通して、こころ、からだ、文化をトータルに捉える心身健康科学という本質に触れることで身につけた研究姿勢を、これからも仕事に生かしていきたいと考えています。

修士論文を国際学会で発表



瀬戸由美さん
心身健康科学専攻
修士課程
2016年3月修了
(病院勤務・管理栄養士)

病院の管理栄養士として、医師、看護師、栄養管理士が一体になって患者ケアを行うチーム医療を担いながら、学会発表や執筆活動に取り組む中で、学会発表の内容が本当に正しいのか、発表内容の裏付けとなる科学的な知識を持ちたいと思うようになり、人間総合科学大学大学院に入学しました。

研究テーマは私が病院で担っている、慢性腎臓病患者の栄養管理に関連して、「慢性腎臓病の食事療法と不安に関すること」にしました。慢性腎臓病患者に対して栄養管理だけではなく精神面も視野に入れた研究を行ないたいと思っていたからです。実際先行研究を探してみると、人工透析をしている患者に関する先行研究はあったものの、人工透析をする前の患者に関する報告は無かったため、慢性腎臓病患者さんに協力してもらい、110人規模のアンケート調査を行うことにしました。

大変だったのが、アンケート調査の集計と分析です。自分なりに考えた方法で集計をして、その結果を指導教授に提出したところ、指導教授から集計手法が誤っていると指摘され、正しい集計方法やグラフなどの表現方法を丁寧に指導いただいた上で、再度、やり直しをしました。その努力が実り、慢性腎臓病患者が何に対して不安を抱くのか、相関関係を明らかにすることができました。研究成果は、国内だけでなく海外の学会でも発表しました。

在学生の声



長谷部ゆかりさん
心身健康科学専攻
博士後期課程
3年次生

私が人間総合科学大学大学院博士課程への受験を決めたのは、心と身体のつながりについて専門的に学ぶことにより、これまで行ってきた看護研究の分野だけにとどまらず、より幅広い視野を持ち研究を進めていきたいと考えたからです。また、人間総合科学大学大学院は通信制の大学院であるため、仕事との両立が行いやすく研究への時間を確保しやすいと考えたことも志望動機のひとつでした。一方で、通信制大学院では研究をどのように進めていくのか、強い意志をもって自ら研究を継続していけるのかどうかという不安もありました。しかし、入学後は専門性の高い先生方からの指導を受け、また担当教員による面接指導を繰り返すことで、意欲的に研究を進めていくことができています。また自宅からパソコンを通して他の院生とディスカッションすることができる環境も整っており、入学後は不安なく楽しく研究を行うことができました。

現在私は、母親の心と身体のつながりに焦点をあて、脳波計や血流計を用いた実験研究を行っています。このような専門的な機器を用いた実験研究により、母親の心身相関について深く追及していきたいと考えています。

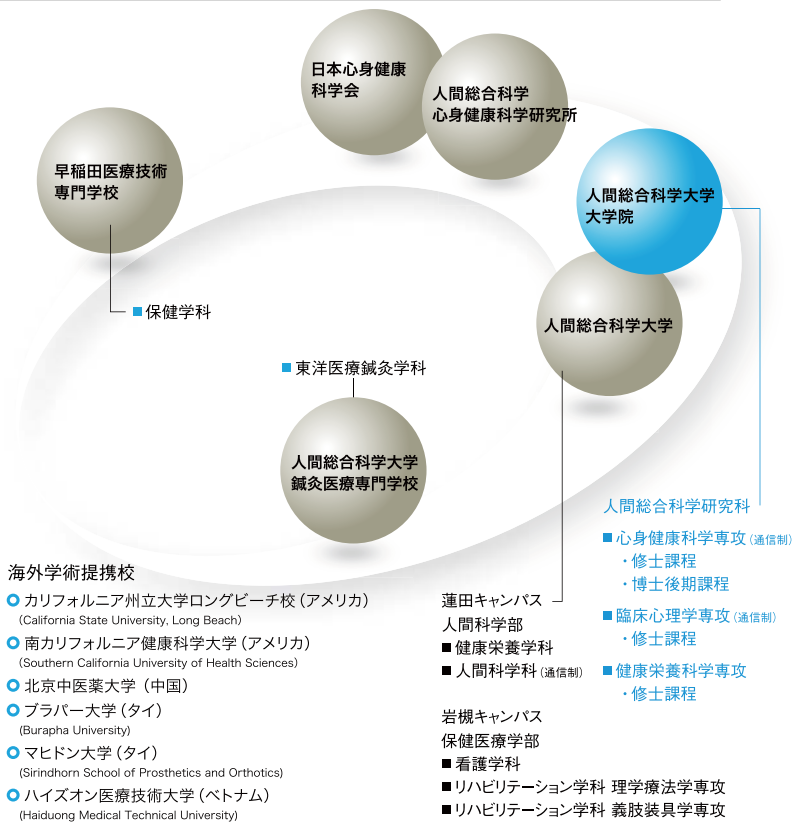


建学の精神・沿革・組織図

建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。
 しかも、有史以来、進化発展を続けている。
 21世紀を力強く生きるためには、新しい展望と視座に立って
 一人一人がしっかりした価値観を持ち、
 未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。
 ここに、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、
 学際的に総合して科学的に探究する必要がある。
 人間総合科学大学を創設し、あらたな学問の追求と統合により、
 真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、
 活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。

2000年4月
 創立者 久住 眞理



沿革

- 1953年 東京カイロプラクティック学院 創立
(創立者：山田 新一)
- 1972年 早稲田鍼灸専門学校 開校
(現：人間総合科学大学鍼灸医療専門学校)
東洋医療鍼灸学科
- 1976年 学校法人早稲田医療学園理事長に、早稲田鍼灸専門学校校長・山田新一が就任
- 1991年 早稲田医療専門学校長・久住眞理が、学校法人早稲田医療学園理事長に就任
- 1993年 早稲田医療技術専門学校 開学
義肢装具学科 看護学科
理学療法学科 作業療法学科
- 2000年4月 人間総合科学大学 開学
人間科学部 人間科学科【通信制】
(創立者：久住 眞理)
- 2004年4月 人間総合科学大学 大学院 開設
人間総合科学研究科
心身健康科学専攻 (修士課程)【通信制】
- 2005年4月 人間総合科学大学
人間科学部 健康栄養学科 開設【通学制】
- 2007年4月 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
心身健康科学専攻 (博士後期課程) 開設【通信制】
- 2009年4月 人間総合科学大学大学院
人間総合科学研究科【通学制】
健康栄養科学専攻 (修士課程) 開設
- 2011年4月 人間総合科学大学
保健医療学部【通学制】
看護学科
リハビリテーション学科 理学療法学専攻
義肢装具学専攻 開設
- 2013年 早稲田医療学園創立 60 周年
- 2016年 人間総合科学大学 大学院
人間総合科学研究科
臨床心理学専攻 (修士課程) 開設【通信制】

人間総合科学 心身健康科学研究所

本研究所は、人間総合科学、心身健康科学の学問の発展をリードする重要な拠点として機能し、学問の開拓と普及に寄与しています。研究の成果を学術団体などを通して国内外に発信するだけでなく、教材や教育プログラムの開発も行っています。さらに、学部・大学

本研究所では、人間を取り巻く環境の変化（刺激）が脳、自律神経、運動神経を介してこころやからだ、さらには行動にどのような影響を及ぼすのかを研究・探究しています。

院教育との連携や日本心身健康学会との共同研究等を図り、心身の相関を科学的に解明する実験研究や、地域や職場、学校、家庭をフィールドとする調査研究も実施しています。

文部科学省認可

人間総合科学大学

大学院 / 人間総合科学研究科

心身健康科学専攻・臨床心理学専攻・健康栄養科学専攻

人間総合科学大学

人間科学部 / 人間科学科・健康栄養学科

保健医療学部 / 看護学科

リハビリテーション学科 理学療法学専攻・義肢装具学専攻

■ 蓮田キャンパス

〒339-8539
 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288

■ 東京サテライト

〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5F

[お問い合わせ・資料請求]

TEL 048-749-6111 (土曜・日曜・祝祭日を除く12:00~17:00)

FAX 048-749-6110

e-mail:graduate@human.ac.jp

<http://www.human.ac.jp/>

人間総合

検索